

今月の逸品

NO.03 2015.06

京都市伏見区深草藤森町1
 ☎ : 075-644-8840/8175
 ✉ : manabi@kyokyo-u.ac.jp

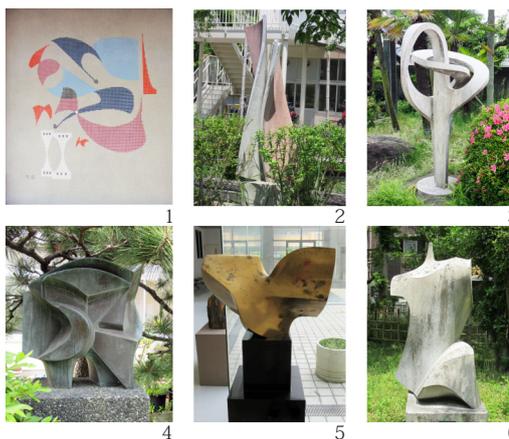


ドッキング

1995（平成7）年

270mm×270mm×150mm

1949年から1986年までの長きにわたって京都教育大学及びその前身学校で教鞭をとった番匠宇司の作品。没年（1995年）の第80回二科展に遺作出品された後、京都教育大学へ寄贈された。具象彫刻で二科展に出品を始めた番匠は、間もなく抽象に転じ、他に類のない独自の造形世界を創出した。70年代以降の作品の多くは、粘土の塊を番線で自在に切断し、そこから生まれる形を構成要素にして、詩情あふれるオブジェに仕上げられている。シャープな線と滑らかで表情豊かな面によって構成される、ごまかしや妥協が一切ない洗練された造形は、多くの人を魅了した。ドッキングと題されたこの作品には、工事中だった明石海峡大橋への強い思いが込められている。番匠は、明石海峡大橋という「夢の懸け橋」によって郷里の淡路島と本州とがドッキングすることを楽しみにしていたとされ、小品でありながら、世界最長の巨大架橋を彷彿させる存在感と優美さを持つ造形といえる。番匠の作品は、附属学校園を中心に多く設置されている。気さくで温和な人柄がにじみ出た、親しみやすくどこかユーモラスな作品は、教育の場で広く愛され、子どもたちを優しく見守っている。



1. 「お城と青い鳥」 京都教育大学附属幼稚園
2. 「なかよし」 京都教育大学附属特別支援学校
3. 「作品C」 京都教育大学附属桃山小学校
4. 「砂漠の王者」 京都教育大学附属桃山中学校
5. 「かたい実の精」 京都教育大学附属高等学校
6. 「原点」 京都教育大学附属高等学校
 （緑のためのモニュメント）